新説　『新世紀　エヴァンゲリオン』

コウ９９

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
新説　『新世紀　エヴァンゲリオン』

【Ｎコード】
Ｎ８５２８Ｃ

【作者名】
コウ９９

【あらすじ】
アニメや映画で放映され、空前の大ヒットした『新世紀エヴァンゲリオン』親と離れて暮らしていたシンジ、一通の手紙、シンジの心の苦悩……てか読んでもらえたら分かってもらえます。メチャクチャ文章でスンマセン。

第1話　始まり（前書き）

アノ人は、僕に何を望んでいるのだろう……できれば僕と同じで合って欲しい

第1話　始まり

ミーン、ミーン、ミーン

一年中夏になってから早１５年…つっても僕はまだ１４歳なんだけど……

『まもなくー、第三東京、第三東京ー……』

第三東京、これから僕が暮らす街…父さんがいる街……嬉しいのか悲しいのか、良く分からないや…

電車の扉が開き、むせるような熱気が入ってくる。人間はこれから便利より適応を優先するべきだてつくづく思う……

東京なのに人が誰もいない……車も通らない……本当にここは東京なのかなあ??不安になってポケットからくしゃくしゃの手紙を取り出す。今どきメールではなくて手紙は珍しい。手紙を見なくても内容は頭にあるが、この目で確かめなければ落ち着かない……

手紙には字が綺麗だが、止めや跳ねがないのでなんとなくだらしなく見える。内容はこうだ。

『はーい、シンジ君!』

いきなり、馴れ馴れしいなぁ……

『私は葛城ミサトよ!シンジ君元気!?』

紹介それだけ!?

『今もの凄くツッコミたくなったでしょー??』

いや、そりゃツッコミ入れたけどさぁ～

『紹介すんの面倒くさいから、また今度教えるわ♪』

今教えろよ！

『教えて欲しいんでしょ～？？私に隠しごとは通用しないわよ！！』

同封されてある写真には短パンにタンクトップ（ノーブラ）、髪はセミロングの推定２０代後半の自称「美人」（写真に書いてある）が腰に手をあてカメラ目線で、カメラに向かってブイサイン……

……！？ブイサイン！？使うとこ間違ってるよミサトさーーん！！しかも右下にＮｏ．１…って、まだあるの！？ツッコミどころ多すぎだよ！！

その時突然……

『う～ん、う～ん…エー今のサイレンは私の声です！！』

反応できないよ……

『今からココ、第三東京は戦闘モードに入るんでみなさんシェルターに逃げてね♪』

戦闘モードって何？？シェルターって何だよ？？しかも、ね♪って緊迫感なさすぎ！！これじゃ誰も逃げないよ！！！

突然前をもの凄いスピードで何かが駆け抜ける……見ると、必死な顔で走るオッサンである。

あんなアナウンスであんなに緊迫感持てるんだよ！

前触れもなくいきなり前方のビルが爆発した。　チュドーン！！！！！

爆風に吹き飛ばされる……な、な、何があったんだ？それに少し暗いぞ…

顔を上げると……

怪獣キターーーーー

顔に胴体がくっついた…てか、同化した化けもんが目から

ビームキターーー

後方のビルが（多分）ふっ飛んだ！

ドカーン！！！

またもや吹き飛ばされる……もう、ワケわかんないよ～～（泣）

来るんじゃなかった……

キキーッ、ガシャーン！！！

車が崩れたビルに突っ込んでる……瓦礫がモゾモゾ動き、

人キターーーー！！

んっ！？もしやあれはＫＹ（空気読めない）の葛城ミサトさんだ

あ〜〜！！！

ミサトさんもこっちに気付いて手を振ってくる。
まさにＫＹ……手を振る余裕ないだろ！！

「シンジ君、元気〜〜？？」とミサトさんが叫ぶ。
んなこと聞く暇ないだろ！！！ここは冷静に
「元気ーーー！」
しまったぁ〜〜！

いつのまにか近くに来ていたミサトさんにペシンと殴られる。

「何ふざけてんのよ！！！」

もう一発殴られた。先にふざけたのはミサトさんなのに……

「まぁ最初にふざけたのは私なんだけどね〜♪」

おい、一発殴らせろ！

「さてと、逃げますかぁ〜♪」

呑気に言うな！！

ミサトさんは胸ポケットからリモコンらしきものを取り出す。

「ポチ、ポチ、ポチっとなぁ〜！！」

イタイよ、ミサトさん…誰もボタン押すのに効果音なんて言わ…
…ってひ、轢かれる〜〜！

瓦礫に埋もれた車が超スピードでバックで突っ込んでくる！

ビビって閉じた目を開くと、ミサトさんが

「はっ、雑魚がっ！」と見下された……

呆気にとられる……意味が分からん…

「早く乗りなさいよ～、殺されるわよ。」

軽く言うなよ……

ミサトさんが助手席のシートをビシバシ叩くので仕方なく乗る。

乗った瞬間、車がヤバイ加速で走り出す。って……ドアがない……

「ミサトさん、ドアがない！！！落ちるよ～！」

「さっきので取れちゃったみたいね♪」

構わずにスピードを上げるミサトさん……あの化け物よりミサトさんの方が危険だ！

今地下道を走ってます。ドアがない車に乗ってひたすら走ってます。ドア無しの車の乗り方のコツを掴みました！！（役に立ちませんが）

もうしばらく走ってると、トンネルが消えて何やらドでかい広場に移り、前方に、

ピラミッド現れたーーーーーーーー！！！！！！！

僕が驚いてると

「ここはねるっ……っつ～～う、噛んだ。」

噛んではイケないとこで噛んだね♪ミサトさん♪

「心の中でザマーミロって思ったでしょ？？」

モチ！！口に出せないけどねぇ～～♪

「何ですかこれは？？」と尋ねると、

「入れば分かるわ。ネルフよ！！」

答えてんじゃねえか！！

もうもうしばらく走ってようやく到着！！

ネルフの中に入って、ミサトさんに連れて行かれる……ミサトさんが不安気にキョロキョロする。まさか！？

「もしかして、ミサトさん……迷ったんですか～～？？」

一拍おいて

「てへっ（○▽○）」

殺すぞババア…んっ！？前方に金髪のグラマラスな綺麗なお姉さんが歩いてくる！！！お姉さんがこっちに気付く。

「遅いわよ！ミサト！って何でそんなに傷だらけ＆どろだらけなのよ！！」

＆の発音がかなりエロい！！ハアッ、ハアッ＊注（只今シンジ君、ぶっ壊れてます！！）

「仕方ないでしょ！！爆発しちゃったんだから！！！」
省きすぎです…　　エロいお姉さんは赤木リツコさんって名前。な、な、名前もエロい！！
＊注（現実離れしたことが起こり過ぎて壊れてます。暖かく見守ってあげてください）

リツコさんに案内されてようやく目的の部屋の前のドアに到着した。
ドアが開くと、とてつもないでかい部屋だった！　　そして前方に、

化け物キターーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー！！

けどさっきのとは違うし、邪悪な…てか危険な感じがしない……むしろ安心な、落ち着く感じがする。

「よく来たな……シンジ…」

聞き慣れた、いや、久しぶりに聞く低く感情のない冷たい、無機質な声…　　声がした方を見ると、やっぱりあの人だ。

クレーンに乗ってゆっくり、似合ってないボーボー髭のオッサンが降りてくる……遅い…あまりに遅い、地上まで後数メートル、オッサン待ちきれず飛び降り……っ……

着地ミスったーーーーーーーーーーーー！！

格好悪いよ父さーーーーーーーーーーーーー！！！！

「グフッ！」落ちた衝撃が半端ないんだろいなぁ～
父さんが心配になって走り寄ると、
「来るな！シンジ！！、これも運命だ！」
余りにも意味不明な発言に誰もツッコメず……
スベッたことに気付いた父さん……恥ずかしさの余り、拗ねて向こう向いちゃった♪
そんな父さんに助け船、リツコさんが
「司令、シンジ君にアノことを…」
「シンジ…何でそんなに汚れてるんだ??」
スパンッッッッ！！　ナイスショット！！リツコさん！！事情を知らないが今そんなこと聞く状況じゃないことはこの僕でも分かる。
「だからですね～、爆発しちゃったからですよ♪」と答えるミサトさんに、
スパパパパパンッ！！　リツコさんと僕のツッコミがダブルヒットーー！！
痛みに悶絶する父さん、ミサトさんをほっといて、リツコさんの説明が始まる。
「今から伝えなければならない最小限のことを話すわ！」
「はいっ！！」
「今さっき、あなたの近くで暴れてた怪獣を私達、ネルフは使徒と呼んでるわ、でその使徒を倒さなければならないの。ここまで大丈夫??」

ヤッベ…エロい声に聞き惚れてた……

「はい……続きをどうぞ！！」

「エエ、使徒を倒すためには、今の兵器じゃ勝てない。だからネルフは使徒に対抗するための兵器、いや戦士『人造人間　エヴァンゲリオン』を生み出した。それが向こうに立っているあれよ！！」とエヴァンゲリオンに指をさすリツコさん……格好良いし、なによりエロい……

「――――――してもらうのだけど、良い？」と首をかしげ僕に頼むリツコさん。こんな綺麗な人に頼まれたら、ノーなんて言えないよぉ～～♪ここは格好良く、

「まかせてください。」　決まった！！

「ならシンジ君、早くエヴァンゲリオンに乗ってちょうだい！！！」

まさかの展開キターーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー！！！

「エエっ？？乗れるんですか？？アレに…」

「話聞いてなかったの～～？？」

「あっ……すいません、聞いてませんでした？？」

それからリツコさんは以下のことを説明してくれた。

今さっき僕の目の前に現れ、暴れてまわったのが通称『使徒』、その『使徒』を倒すために生み出されたのが通称『エヴァンゲリオン』、略して『エヴァ』。でこの第三東京を守るために僕が『エヴァ』乗って出撃し、『使徒』を倒す。

ちょっと待て～、何故が僕がいかなきゃいけないの??と聞くと、やっと回復した父さんが、

「シンジ、お前じゃなきゃダメなんだ」とまるでヒモみたいな、てか意味不明な発言にリツコさん、怒りの『チョークスイーパー』……父さんがギブと床をたたいてもやめなかった、オチルまでやられてました。

いいなぁ～父さん、僕もしてもらいたいなぁ～♪　＊注（シンジは、真性の変態みたいです。取り扱いにご注意ください。）

オトシ終わったリツコさんが代わりに答えた。

「『エヴァ』は１４歳の、いや子供しか乗れないの……シンジ君以外の子供が今ここにいないの…」

「もしかして僕がここに呼ばれた理由って……」

「エエ、『エヴァ』に乗ってもらうためよ。』

違うんだ、僕が望んだ望まれた方じゃない……そんな都合の良いことなんじゃないんだな……

「それと、この任務は非常に危険よ。だから改めて聞きます。『エヴァ』に乗ってくれますか??』

戦うために、ここに、第三東京に呼ばれた。『使徒』と戦い、そして勝つことを望まれた……僕はそんなこと望んでない！！

「正直言うとね、酷だと思うわ、まだ幼い子供に命懸けで戦わせるなんて……だけど『エヴァ』はあなたにしか乗れない。ましてやこの初号機は…あなたしかいないの……これが最大の理由、あなたが戦い、勝たなければ……人類に未来はないの。」

僕は今の望まれ方を望んでない、けどそれで拗ねてたら人類は滅びる…望まれ方を変えたいなら、僕が望む望まれ方にしたいなら戦えってことか……僕の一言に全てが懸かってる……なら僕は、

「分かりました…『エヴァ』に乗って戦います！」

その日から、僕が始まった……

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8528c/

新説　『新世紀　エヴァンゲリオン』

2010年10月10日19時16分発行